

幻のカラオビハエトリ

池田博明

研修報告書用草稿 2011年8月17日

ボルネオでもっとも気になるハエトリグモは西表島に生息するカラオビハエトリ *Siler collingwoodi* であった。和名の提案者は私で、カラオビのカラは「カラフル(色彩豊かな)」という意味と「唐」という意味をかけている。ケンブリッジが1871年に記載した標本のタイプ産地は「香港」と記されているが、実際にはボルネオであった。

タイプ標本は雄で、ポーランドのプルシンスキーが再記載しており(Proszynski, 1985)、その図と記載から、カラオビハエトリを *Siler collingwoodi* と池田は予想し(池田,1996) 沖縄でクモの未記載種をたくさん採集している馬場友希博士が、沖縄県西表島産の標本で再記載して下さった(Baba, 2010)。

今回の研修旅行では、本種のタイプ産地であるボルネオでカラオビハエトリを採集することが目的のひとつであった。

カラオビハエトリは里山に普通に生息し、草本上を徘徊するクモである。サバ州のタンブナン村であちらこちら探したが見つからない。ピーティングしても落ちてこない。ところが、2011年8月8日の午後、宿泊しているホテル、7 ロッジの隣室の小澤めぐみさんが、外の洗濯物の上にハエトリグモがいるというのだ。そっと持参されたクモがなんとカラオビハエトリと思われた雄(右の写真)だった。



この女性が宿泊する隣室からは、前日の7日に山口真矢さんがアダンソンハエトリの雄(幼体)を取って来て下さったばかりだった。アダンソンハエトリはコスモポリタン、つまり世界共通種である。日本では屋内で発見されることが多い。マレーシアでも同様のようである。

重要なクモが次々と自分で取らずに採集されたのであった。しかも、カラオビハエトリとは頭胸部背面の色彩が緑色で異なっていた。これは日本のカラオビハエトリは *Siler collingwoodi* ではないかもしれないと思った。その後、このハエトリの雌も取ろうとロッジの庭をひまにまかせて歩き回ったが、見つからなかった。

しかし、ボルネオ産のクモを検鏡して驚いた。よく似た別種 *Siler semiglaucus* (SIMON, 1901) だったのである。日本には産しないため和名はない。こちらの種の既産地はスリランカからフィリピン、スマトラ島であった。『香港跳蛛図鑑』(2006)にも出ていた。ちなみ

にこの美しい写真ハエトリグモ図鑑に、カラオビハエトリは載っていなかった。

今回はついに原記載のカラオビハエトリに出会うことは出来なかった。カラオビハエトリまだ幻のクモのままである。

草稿に助言くださった谷川明男博士に感謝します。

参考文献

Proszynski, J., 1985. On *Siler*, *Silerella*, *Cyllobelus* and *Natta* (Araneae, Salticidae). *Annales zoologici*, 39(2): 69-85.

Y, Baba. 2010. A new record of *Siler collingwoodi* (Araneae: Salticidae) from Japan. *Acta Arachnologica*, 59(1):17-19.

池田博明, 1996. 日本蜘蛛学会第 28 回大会講演要旨 (西表島および九州のハエトリグモ 5 種) .*Acta arachnologica*, 45(2):180.

S.T.Tsim, 2006. *Photographic Guide to the Jumping Spiders of Hong Kong*. Wan Li Book Co. Ltd., Hong Kong. 228 pp.